

授業科目	* 看護形態機能学 I				単位	2		
履 修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU11101J		
開講年次	1 年	開講時期	前期	該当DP	DP1-2 DP2-1			
担当教員	笹月 桃子							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>看護師として社会の人々の健康の保持と増進を目指し、病を抱える人の日常生活を支える役割を果たすためには、人間の身体の機能および、身体に生じている病態を理解した上で、その身体に適した援助を実践することが重要です。看護形態機能学では、一年間を通じて器官(臓器)系統別にだけでなく、日常生活の行動から身体を把握する視点を通して、人体の構造と機能についての理解を深め、看護に必要な基礎的な知識を習得することを目的としています。前半の「看護形態機能学 I」では、日常生活の中で馴染みの深い、栄養、呼吸、循環、内臓機能の調節、その正常な生体機能について解説します。実務家教員として、20 年以上高次機能病院の医師として勤務した経験を通じ、医療実践の基盤となる体系的な知識の習得のみならず、生命の神秘に触れ、また個別性の高い現場において求められる医療専門職としての視点や姿勢について共に考える機会を作りながら講義を進めます。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 人体の基本構造を説明できる</li> <li>2 栄養の消化と吸収について説明できる</li> <li>3 呼吸と血液のはたらきについて説明できる</li> <li>4 血液の循環とその調節について説明できる</li> <li>5 体液の調節と尿の生成について説明できる</li> <li>6 内臓機能の調節について説明できる</li> </ol> <p>2~6 について、日常生活の活動とリンクをさせて理解できる</p>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	60	20	20	0	0	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)	40	10	10				60	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	20	10	10				40	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)								
態度 (DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
形態・機能と看護との関連を理解することができる。				形態・機能の基礎的な知識を身に付ける。				
授業計画								

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	テーマ:人体の構造と機能を学ぶために	講義	当該部分の予習と復習	60
2	テーマ:解剖生理学を学ぶための基礎知識(1) 人体の素材としての細胞と組織	講義	当該部分の予習と復習	60
3	テーマ:解剖生理学を学ぶための基礎知識(2) 構造と機能から見た人体	講義	当該部分の予習と復習	60
4	テーマ:栄養の消化と吸収(1) 口・咽頭・食堂の構造と機能	講義	当該部分の予習と復習	60
5	テーマ:栄養の消化と吸収(2) 胃・小腸の構造と機能	講義	当該部分の予習と復習	60
6	テーマ:栄養の消化と吸収(3) 大腸の構造と機能	講義	当該部分の予習と復習	60
7	テーマ:栄養の消化と吸収(4) 膵臓・肝臓・脾臓の機能と構造	講義	当該部分の予習と復習	60
8	テーマ:栄養の消化と吸収(5) 腹膜	講義	当該部分の予習と復習	60
9	テーマ:栄養の消化と吸収(6) (1)～(5)の復習	講義	当該部分の予習と復習	60
10	テーマ:呼吸と血液のはたらき(1) 呼吸器の構造	講義	当該部分の予習と復習	60
11	テーマ:呼吸と血液のはたらき(2) 呼吸運動	講義	当該部分の予習と復習	60
12	テーマ:呼吸と血液のはたらき(3) ガス交換	講義	当該部分の予習と復習	60
13	テーマ:呼吸と血液のはたらき(4) 赤血球・白血球・血小板	講義	当該部分の予習と復習	60
14	テーマ:呼吸と血液のはたらき(5) 血漿タンパク質・血液の凝固と線維素溶解	講義	当該部分の予習と復習	60
15	テーマ:呼吸と血液のはたらき(6) (1)～(5)の復習	講義	当該部分の予習と復習	60
16	テーマ:血液の循環とその調節(1) 心臓の構造	講義	当該部分の予習と復習	60
17	テーマ:血液の循環とその調節(2) 心臓の機能	講義	当該部分の予習と復習	60
18	テーマ:血液の循環とその調節(3) 末梢循環系の構造	講義	当該部分の予習と復習	60
19	テーマ:血液の循環とその調節(4) 血圧の調節	講義	当該部分の予習と復習	60
20	テーマ:血液の循環とその調節(5) リンパとリンパ管	講義	当該部分の予習と復習	60
21	テーマ:血液の循環とその調節(6) (1)～(5)の復習	講義	当該部分の予習と復習	60

22	テーマ:体液の調節と尿の生成(1) 腎臓の構造と機能	講義	当該部分の予習と復習	60
23	テーマ:体液の調節と尿の生成(2) 糸球体・尿細管・傍糸球体装置の構造と機能	講義	当該部分の予習と復習	60
24	テーマ:体液の調節と尿の生成(3) クリアランスと糸球体濾過量	講義	当該部分の予習と復習	60
25	テーマ:体液の調節と尿の生成(4) 排尿路	講義	当該部分の予習と復習	60
26	テーマ:体液の調節と尿の生成(5) 脱水・電解質・酸塩基平衡	講義	当該部分の予習と復習	60
27	テーマ:体液の調節と尿の生成(6) (1)～(5)の復習	講義	当該部分の予習と復習	60
28	テーマ:内臓機能の調節(1) 自律神経による調節	講義	当該部分の予習と復習	60
29	テーマ:内臓機能の調節(2) 内分泌系による調節	講義	当該部分の予習と復習	60
30	テーマ:内臓機能の調節(3) 全身の内分泌腺と内分泌細胞	講義	当該部分の予習と復習	60
理解に必要な予備知識や技能	解剖生理学は、範囲が広く、内容也多岐にわたりますが、今後、疾患や治療、ケアの実践について学ぶ際の基盤となる知識です。体系的な教科書の内容と併せて、自分自身の生活や身体を通して多面的に理解を深めることが大切です。			
テキスト	教科書:系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 必要に応じてプリント配布			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	講義の中で適宜 紹介します。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	講義範囲について、講義後に講義で聴いた内容を教科書及び参考資料なども参照し、復習してください。次回の講義の始めに10分程度の小テストを行います。(小テストの課題は告知します。) 実際に患者さんを目の前にした時の看護の実践に、この講義の中で得た知識をどのように生かせるのか、共有しながら双方向性に講義を進めます。これから人の身体・命に触れる専門職としての意識を培っていくスタートになるよう、意欲的な取り組みに期待しています。			
達成度評価に関するコメント	期末試験60%、小テスト20%、レポート20%で評価します。 レポート内容については講義の中で指示します。			